
古賀市環境審議会（第38回）議事録

1 期日 平成29年11月29日（水曜日）9時から10時55分まで

2 場所 サンコスモ古賀203, 204会議室

3 出席委員（12名）

会長	薛 孝夫	委員	中屋 允雄
副会長	清水 佳香	委員	崎村 泰道
委員	嶺井 久勝	委員	水上 シゲ子
委員	二渡 了	委員	吉見 一郎
委員	島岡 隆行	委員	前野 早月
委員	大石 太郎	委員	柴田 幸次

4 欠席委員（3名）

委員	鬼倉 徳雄	委員	三輪 素子
委員	谷本 潤		

5 傍聴者数 1名

6 事務局出席者職氏名

市民部長	野村 哲也	環境課長	智原 英樹
環境整備係長	船津 真里子	ごみ対策係長	矢野 貴宏
業務主査	永延 祐介	主任主事	吉澤 祥子

7 議題等

- ・平成29年版古賀市環境報告書（案）について

8 配布資料

（事前配布）	次第
	平成29年版古賀市環境報告書（案）
（当日配布）	第38回 古賀市環境審議会正誤表

概要

1. 開会あいさつ

- ・部長よりあいさつ。

2. 議題等

(1) 平成 29 年版古賀市環境報告書（案）について

- ・配布資料に基づき、概要を事務局より説明。
- ・質疑・応答。
 - 柴田委員： [75 ページについて]
D0 の平均値が違うところがある。見直してもらいたい。
 - 事務局： 正誤表に書いた部分以外にも計算間違いがある。記載ミスのため再点検して、修正したい。
 - 柴田委員： [77 ページについて]
本文 3 行目には「干潮時」「満潮時」とあるが、表 13 には「午前」「午後」となっている。統一したほうがよい。
 - 事務局： 「午前」「午後」にて統一する。
 - 薛会長： 海水の水質は満潮時・干潮時で異なるものなのか。
 - 柴田委員： 一般的にこういった調査は午前・午後でやっている。湾内ではないので、満潮・干潮の影響はあまりないと思う。
 - 二渡委員： 追加になるが、塩化物イオンの状況から見て採取地点はほぼ海水の地点だと思われるが、午前・午後で大きな数値の変動がないので、干満の差による影響はほぼないのではないか。いずれにしても基準値以下になっているので、良好な状況であると言える。
 - 中屋委員： [77 ページについて]
誤字だと思うが、「基本的な取り組み」の「河川・講演」となっているとところは「河川・公園」の間違いではないか。
 - 事務局： 同じところの「想像」も「創造」の間違い。併せて修正する。
 - 二渡委員： [36 ページについて]
再生可能エネルギーの推進について、「情報収集」のみとなっているが、7 ページを見ると交流館への太陽光パネルの設置が書いてある。このことを記載してもいいのでは。
 - 事務局： 36 ページが古賀市全体の再生可能エネルギーの推進の話であり、交流館の太陽光パネルについては、42 ページの取組 3「研修等に太陽光パネルを設置」に記載している。施設名称の変更により、分かりづらく申し訳ない。
 - 二渡委員： 今後の動向のところ「古賀市の特性にあった再生可能エネルギー」とあるが、古賀市の特性とはどういったものかを考えているのか。
 - 事務局： 想定されているものとしては、他の地域で話題になっている小水力発電

とか木質バイオマスがあると思うが、資源の確保や市民のニーズなどを検討しながらやっていく必要があると考えている。また、設備の導入の検討というところ言えば、古賀市の食品加工団地の廃棄物を利用した再生可能エネルギーを検討している。

- 二渡委員： 他の地域ではメガソーラーなどもあり、景観などでも問題になっている。バイオマスの検討はいいことだと思う。

[45～47 ページ、82 ページについて]

ここ1, 2年で今まで減少していた1人当たりのごみの総量が増え、逆に資源化率が下がっているが、これはどういったことが原因だと考えているか。

- 事務局： 要因については調査しているが、1人当たりの量については家庭系・事業系を合わせた総計を人口で割った数になる。家庭系のごみは大きく増えていないが、事業所数の増などにより事業系のごみが増えており、それが要因の一つだと考えられる。昨年から事業所訪問などを行い、指導を行っている。また、資源化率の減少については、近年商業施設などにも資源ごみの回収ボックスなどが置かれており、アンケートの結果から商業施設の回収を利用している人も多いことが分かっている。しかしながらショッピングセンターのリサイクル量が把握できないため数字に含むことができず、その分が減少していることも考えられる。中間見直しなどで家庭系と事業系を分けるような手法も検討したい。

- 二渡委員： 市民の方がかなりがんばっているのだから、数字として見えるようにしてほしい。

- 薛会長： 人口当たりのごみ量を出すときに、家庭系・事業系をそれぞれ分けて出すのが一般的なのか。

- 島岡委員： 普通は分けないのが一般的である。だいたい1/3くらいが事業系なので、ごみの量が大きく変動するときは往々にして事業系の増減が大きな影響を与えていることが多い。家庭系・事業系と分けていくならより詳しくなりいいと思う。

- 薛会長： よい手法ということなので、ぜひ家庭系・事業系と分けた形での検討を進めてほしい。

- 吉見委員： 自分もちょっと勘違いしており、この数字を見て「自分の家は平均よりごみを出していないな」と感じた。ただ事業系を合わせた数字となると自分の家と比較できない。ぜひ家庭系と事業系と分けてもらって市民の参考になる資料にしてほしい。

- 前野委員： 確認をしたいのだが、現在の資料では家庭系と事業系が合計されたものであると思うが、それぞれの量の確認などはできないのか。

- 事務局： 現在家庭系と事業系は別の日に収集するため、収集するごみの量については把握ができています。ただ、直接清掃工場に持ち込まれる分については家庭系と事業系の区別がつかないため、収集した家庭系と事業系の割合に合わせて按分して計算している。

- 前野委員：先ほど商業施設での回収の話があったが、他にも新聞回収などで自宅から持っていってもらっている人もいる。そういったものは数値に入らないので、高齢者などがもっと出しやすくなるような施策を打たないと、資源化率に大きな影響を与えるのではないかと。啓発も大事だと思うが、分別収集や商業施設などに行けない人のために、小さく回るなどの施策も必要だと思う。
- 事務局：商業施設や自宅からの回収などは現実問題として把握は難しい。公共がやっている回収場所を広報していくのはもちろん大事だと思うが、商業施設で環境に配慮した活動をしていただいているので、そういった民間の活動もPRしていくことも大切だと考えている。公共の回収場所に出すだけでなく、商業施設なども利用してもらうことで、より資源化が進んでいくと考えている。資源化率の書き方についてはそういったことを注釈で入れるなど、書き方の対応を考えていきたい。
- 清水副会長：同じくごみのことだが、商業施設などが行っている資源ごみの量などの聞き取りは行っているのか、また商業施設などに持ち込まれる資源ごみの傾向などはあるか。一般市民へのアンケートによると「出しやすいところに出す」という傾向があるということだったが、受け入れられる商業施設などの傾向はあるのか。
- 事務局：一昨年から事業所が出す資源ごみについての調査は行っているが、受け入れている商業施設の量の把握などは行っていない。ただ今年度、優良事業所の表彰制度を行いたいと思っているので、そういった資源ごみの回収を行っている商業施設なども、積極的に認定・表彰いきたいと考えている。その際に合わせて情報収集も行っていきたい。
- 清水副会長：商業施設に多く出しているということだったが、実際に集まっているかどうかの確認をしてほしい。
- 清水副会長：[8ページについて]
- 「分別収集の啓発」の中に「ゴミの日 NAVI」というアプリの紹介があるが、これについての広報はどういったことを行ってきたのか。
- 事務局：アプリ自体は平成28年度末に作成しており、実際の周知は平成29年度に入ってからになる。新聞大の「平成29年度版古賀市家庭ごみの出し方」を平成29年度当初に配布しているが、その一角にアプリの紹介を掲載した。アプリについてはこちらのペーパーを作る際にサービスとして一緒に作ってもらったものであり、現在は試行段階である。
- 清水副会長：分別の決まりが分かりにくいという声もある。以前、本を子ども会の回収に出そうとした人が、項目の中に「雑誌」というのはあっても「本」という文字がなかったため、現場の人に断られてしまい回収に出せず、にっちもさっちもいなくなった、という話も聞いた。ごみの種類は多様であり、ちょっとしてニュアンスの違いで分別の現場では苦労している。現在アプリの内容が回収日だけということであれば、そういった対応策も一緒に掲載できるような検討をしてほしい。

- 事務局 : 本については雑誌と同じ扱いになるので、回収はできる。またアプリは今回無償でお願いしており、古賀市に特化したアプリとなると、費用がかなり発生するとも聞いている。周知の方法についてどんな方法があるか検討したい。
- 薛会長 : 紙の宣伝物には「雑誌」ではなく「本・雑誌」などと書くなど工夫をしてほしい。
- 大石委員 : [82 ページについて]
図 11・図 12 について、平成 24 年度が実績値、平成 28 年度、平成 35 年度が目標値となっているが、平成 28 年度については実績値が出ているので、実績値と目標値を併記してはどうか。
- 事務局 : ご指摘の通り平成 28 年度については、実績値が固まっているため、併記できるような記載方法を考えたい。
- 大石委員 : [66 ページについて]
表の 1 人 1 日当たりのごみ処理量、資源化率の目標値及び目標年度が平成 35 年度になっているが、より近い平成 28 年度の目標値を使ったほうがよいのではないか。
- 事務局 : 目標値及び目標年度については、第 2 次環境基本計画のものに統一している。平成 28 年度の目標数値については基本計画の中では記載がなく、第 2 次ごみ処理基本計画の中に出てくる数値である。そのためこのまま平成 35 年度の表記としたい。
- 薛会長 : 82 ページについては第 2 次環境基本計画の数値でないが、重要な数字であるということであれば併記でもよいし、そうではないということであれば削除というのもよいのではないか。
- 事務局 : 目標数値は古賀市のマスタープランにも出てくる数字であるので、数字自体は重要だと思うので、書き方については検討したい。
- 中屋委員 : [57 ページについて]
指標のアダプトプログラムの登録数が減少しているのはなぜか。
- 事務局 : 今回、活動を行っているかの確認を行った結果、実際に活動をしていない団体を減らしたため、減少という形になった。今後はアダプトプログラムではないボランティアで活動している団体などに、アダプトプログラムへの登録を呼びかけている。
- 中屋委員 : 取組 1 のところにラブアースの表記があるが、古賀市では他にも大根川の一斉清掃が学校や団体、企業などを巻き込みながら行っている。併せて記載してはどうか。
- 事務局 : 掲載する方向で検討したい。
- 薛会長 : ラブアースと市の関わり、大根川清掃と市の関わりはどうか。同じか違うのか。
- 事務局 : ラブアースは運営員会の事務局を市で行っている。大根川清掃については、集められたごみの収集を支援している。
- 薛会長 : 大根川の一斉清掃も平成 28 年度の活動の記録として入ったほうがよい

と思う。

- 嶺井委員： [河川の環境について]
谷山地区から薬王寺地区にかけて採石場が、近年拡大している。大雨などの際には大根川への影響があるように思う。市役所の対応はどうなっているか。
- 事務局： 採石場については、県の管轄ではあるが、窓口としては農林振興課が関わっている。環境課としては、実際に川の汚染などがあった際に対応を行う体制となっている。窓口の課には意見が出ている旨を伝えたい。
- 二渡委員： [84 ページについて]
水俣条約が締結されて、水銀関係の廃棄について注目されている。84 ページの一覧には掲載されていないようだが、古賀市の対応はどうか。
- 事務局： 市民が廃棄する体温計などの水銀については、環境課の窓口で回収している。
- 二渡委員： 市民の方が体温計などを捨てる際にめんどくさくて燃えるごみにそのまま入れる、というのもあると思う。取り組みを進めて、正しく回収できるようにしてほしい。
- 事務局： 回収ボックスなどの設置など、回収の方法については検討したい。
- 薛会長： 先ほど話が出たごみの出し方についてのチラシなどに、水銀のことは書いてあるのか。
- 事務局： ごみの出し方のパンフレットには書いているが、かなり小さくはあるので、周知について検討したい。
- 島岡委員： もう1つの大きなものといえば蛍光管があり、これは分別の中に入っているが、「割らないで丁寧に扱って」というのも周知してほしい。
- 事務局： 併せて周知を検討したい。
- 崎村委員： [有害鳥獣について]
自分の周りにも環境にマイナスを及ぼす生物が多くなっていると感じる。生物多様性を考えるうえで、そういった負の部分も考えていく必要があるのではないか。また、被害の状況などの把握は行っているか。
- 事務局： 生物多様性の地域戦略を現在作成しているが、「持続可能な生物多様性」を目的としている。その中で有害鳥獣についても検討していく必要があると考えている。実際の被害状況などについては、担当が農林振興課であるため即答は難しい。
- 崎村委員： 今後、そういった問題を入れ込むことができれば、ぜひお願いしたい。
- 前野委員： [8 ページについて]
ごみの減量と資源化の啓発について、コスモス市民講座での講演会が挙げられているが、市民意識アンケートの調査の評価と課題はなんだったのか。調査の中で実際に資源化できるものもかなりあったという結果も出ている。
- 薛会長： アンケートの結果などは、文書で公開してあるのか、それとも記載してある報告会だけなのか。

- 事務局 : アンケートについては平成 19 年度から断続的に行っており、結果については報告会と併せて、平成 29 年度にチラシを全戸配布している。
- 薛会長 : 直後の環境報告書にアンケート結果を載せるなどの対応もしてもいいかもしれない。次回アンケートの際は検討してほしい。
- 前野委員 : 結果としては市民意識が高い、という結果だったかと思う。そうなるとその意識に応えられるような、高齢者のふれあい収集や土日への対応など、市民が出しやすい環境を作っていってほしい。
- 前野委員 : [10～11 ページについて]
平成 31 年度に生物多様性のガイドラインを策定するとあるが、ベースの調査が平成 15 年であり、生物調査などを来年度に行うのか、それとも平成 15 年度のデータでも問題ないのか。
- 事務局 : データ自体が古いという問題はあるが、平成 15 年度に行ったような大規模調査は難しい。そのため手持ちのデータや他機関のデータなども活用しながら、策定していくというのを調査委員会の中で決定している。平成 30 年度以降も委員やボランティアの協力をいただきながら調査は行っていきたい。
- 前野委員 : [50 ページについて]
事業所の優良表彰について、どれくらい進んでいるのか。
- 事務局 : 要綱を現在作成しており、現在ホームページ上で事業所を募っている状態である。応募してきた事業所については内容を確認の上、認定を行う。また特に優れた事業所に関しては、来年度以降に表彰を行おうと考えている。
- 薛会長 : 永久に認定、というわけにもいかないと思うので、更新のやり方なども考えてほしい。
- 島岡委員 : [78 ページについて]
年間通して行っているものは構わないと思うが、年に 1 回の調査については、何月に行っているのか明記したほうがよい。
- 柴田委員 : 表の上などに日付を入れるのが一般的なので、書ける部分に関しては、そうしてはどうか。
- 事務局 : 年に 1 度などの調査については、何月に行ったか分かるように、表に明記したい。
- 薛会長 : 毎年同じ時期に調査を行っているのか。
- 事務局 : 調査によっては調査時期が違うものもある。
- 中屋委員 : [65～67 ページについて]
達成率の計算はどうやって行っているのか。
- 事務局 : 目標値と計画策定時の状況を比べ、その差をどれくらい達成できたかでパーセンテージを出している。例えば目標値が 100 人、計画策定時が 36 人、進捗状況が 45 人だった場合、 $(45-36) \div (100-36) = 14.0\%$ となる。
- 島岡委員 : 平成 26 年度から平成 28 年度までというより、平成 28 年度の達成状況かと思うので、その書き方でよいのではないか。

- 柴田委員：都市環境 A-②のところは 1,403 点、651.5%となっているが、積み上げで見ていくものなのか。単年度で見る場合、積み上げはそぐわないのではないか。
- 事務局：基本計画には、計画策定時の平成 25 年度に 100 点、目標としては平成 27 年度までの 3 年間の累計で 300 点をめざす、という記述がしてあった。事業自体は平成 28 年度まで続いているため、平成 25 年度～平成 28 年度の累計である 1,403 点を平成 28 年度の結果として記載している。
- 前野委員：達成率で 651%などは分かりにくいのではないか。表記を考えては。
- 薛会長：ここだけ見るとおかしな感じになるので、表記を分かりやすく考えてほしい。
- 事務局：基本計画に書いてある目標が累計になっている以上、それを変更するのは難しいが、表記については分かりやすくなるように検討したい。
- 前野委員：関連して、進捗状況の部分が H26～H28 となっているが、「平成●年度」とするのか「H●」とするのかは統一したほうがよい。
- 島岡委員：本当は西暦のほうがよい。
- 事務局：行政では一般的に元号を使うこととなっており、それに合わせている。平成と H の混在については対応したい。
- 柴田委員：[7～8 ページについて]
主な取組について、それぞれ該当ページを記載してもらおうと、どの項目か分かりやすく、よいのではないか。
- 事務局：指摘の通り修正します。
- 柴田委員：[77～78 ページについて]
地点の表記が地図と表 13・表 14・図 10 とで上下が違ふ。合わせるとより見やすくなるのではないか。
- 事務局：指摘の通り修正する。
- 島岡委員：合わせて、表のタイトルは上、図のタイトルは下に表記してほしい。
- 事務局：指摘の通り修正します。
- 吉見委員：[43～44 ページ、70 ページについて]
市役所の温暖化防止の計画が平成 29 年 2 月に地球温暖化対策実行計画（事務事業編）に変わっている。具体的な施策をもっと記載してほしい。同じく 70 ページの中でも今後の取り組みを記載し、古賀市自らの行動目標を明示して、市民や事業者の自主的・積極的な行動を促進してほしい。また、先進的に取り組んでいる古賀市カーボン・マネジメントシステムも記載してほしい。
- 薛会長：具体的にはどこら辺がよいか。
- 島岡委員：70 ページの今後の取り組みではどうか。
- 事務局：指摘の通り 70 ページの今後の取り組みに追記する。具体的には平成 29 年度の取り組みとなるため、平成 30 年度の報告書にはしっかりと表記したい。
- 薛会長：44 ページの今後の動向が、取組 3、4 の「平成 29 年度以降の取組につい

て」と同じような表記になっている。ここにも追記してはどうか。

- 事務局： 今後の動向について、書き方を検討する。
- 島岡委員： [災害廃棄物について]
適当なページを見つけきれないが、気象変動や水害といった際の災害廃棄物が大きな問題となっている。どこかに表記できないか。
- 薛会長： 報告のページには難しいかもしれないが、70ページ以降のページではどうか。
- 事務局： 災害廃棄物については、県からの依頼などに基づき処理しているので、表記できるところがあれば書きたい。
- 島岡委員： 災害廃棄物処理計画などは策定しているのか。
- 事務局： 策定していない。
- 島岡委員： 半数くらいの市町村が策定していると思うので、策定も検討してもらいたい。83ページ辺りに表記してはどうか。
- 事務局： 福岡県の計画が平成28年度の半ばで完成し、そこから各市町村への通知があり、平成29年度からいくつかの市町村が作成している状態。古賀市の場合、清掃工場を近隣市町と合同で運営しており、古賀市単独での計画がなかなか難しい。現在担当者同士で情報交換をしている段階である。
- 薛会長： 準備中の段階であることも含め、書けるものを表記することでどうか。
- 事務局： 検討して、表記したい。
- 薛会長： 他にはないか。

(意見なし)

- 薛会長： それでは今までの意見を基に、事務局は環境報告書を完成させてほしい。まとまったものについては、会長のほうで確認し、皆さんに配布したいがよろしいか。

(異議なし)

3. 事務局からの連絡事項

- ・会議録は作成次第、委員全員にメール・郵送し、内容等に誤りがないか確認をお願いしたい。
また、会議録についてはホームページで公開する
- ・報償・費用弁償については、12月の振込を予定している。マイナンバー届出をまだ提出されていない委員においては、提出をお願いしたい。

4. 閉会

- ・環境課長より挨拶